

第6回 M.O.Bダンスワークショップの活動を調査!



南大沢ダンスワークショップ、通称M.O.Bは2013年より当財団主催で始動した、小学生から中学生までのメンバーが、八王子市の大学生含むインストラクターの方々の下でダンスを学ぶワークショップです。年に2回の発表会に向けて、毎週日曜日、南大沢文化会館で日々練習に励んでいます!今日はそんなM.O.Bのインストラクターとその参加メンバーにお話を伺いました!

ミライの
BLINKA
研究室

ミライの文化を創り出す、次世代の若者文化の活動の中心に!



インストラクター
たくや 先生

やりがいを感じる時はどのようなときですか?

間近で見る子どもの成長は思っているよりもずっと早く、心も身体もみるみる大きくなっていきます。そんな中でダンスを通して、何を伝え、どんな風に感じるかを大事にしながらレッスンに臨んでいます。毎週のレッスンや発表会で子どもたちが成長していく姿には心から感動し刺激を受け、自分にとっても活力が得られる場と感じます。



M.O.Bに参加して楽しいと感じる瞬間は?

参加していて楽しいのは他学年と交流する機会が多いことです。小学4年生から中学3年生までメンバーがいるので発表会などを通じて友達の幅が広がり、特に後輩とも仲良くなれて、よく話しかけてくれます。今頑張っていることは、より多くの人に自分の表現が伝わるように意識することです。人の心を動かすような感情のこもったダンスを踊れるように日々努力しています。



参加メンバー
小笠原実佑 さん

M.O.Bスタート当初よりインストラクターとして活動されるTAKUYA先生にインタビュー!

●これからM.O.Bとして挑戦していきたいことは何ですか?

来年はいよいよ活動がスタートして10周年を迎えます。携わってくれたインストラクターの数も20人近くになりました。

今まで、そしてこれからも八王子のダンス文化を広げていきたいというのが念頭にありますが、これからはさらに南大沢文化会館を飛び出して、今までにない企画にも挑戦していきたいです。まず、八王子でも多くの方々に僕たちの活動を知っていただいて、ゆくゆくは八王子の外にも出ていきたいですね!

●大きな舞台でも活躍されているTAKUYAさんですが、ダンスを教える意義とは?

舞台は吸収する場であって、それはインプットだと思っています。その経験をアウトプットすることも必要で、それは自分の立たせていただいた舞台でみたものを、子どもたちに伝え、教えることです。それによって、自分の中で再認識して、また舞台で「もっと吸収しよう!」と思えます。

●子どもたちにダンスを教えていく中で何を大切にしていますか?

色々な子どもたちがいるので、ひとりひとりそれぞれに合った接し方をするように心がけています。ただその中でも共通して成長できる環境を用意したいと思っています。自分は何をしたいのかを明確にしてレッスンに来てもらうようにすることや、その目標のために地道な努力をすることも含めて教えられればと思います。

例えば、練習前の体幹トレーニングやストレッチなども、子どもたちにとっては一見地味なことかもしれない。でも、目標をもてば何故これをやるのか、というのが徐々に分かってきます。ダンスの技術だけではなく、物事に取り組む姿勢を含めて子どもの成長が見られると嬉しいです。



大人顔負けの迫力あるパフォーマンスでステージを作りあげるM.O.B。発表会の終わりにはインストラクターの方々もダンスを披露し、その姿に子どもたちも釘付けでした。そんな庄巻の表現を完成させるのにどんなレッスンをしているのかと練習風景を覗くと、そこにはとてもアットホームな環境がありました。ダンスを通して自発性や協調性も教えたい!と日々悩みながらも真っすぐにメンバーと向き合うインストラクターの方々の様子。それに応えるように、子どもたちは休憩時間もそれぞれ練習を続けていたインストラクターと親しげにお話をしたり、積極的にレッスンに取り組んでいました。「子どもの成長から教わることも沢山あります」と話すインストラクターの方々、憧れや目標に向かって努力するメンバー、子どもたちの気持ちに寄り添おうと一緒に踊りを教わる財団職員の姿。人との繋がりからダンスの才能が磨かれるスクールとしての在り方は、本当にスゴい…!



インストラクター TAKUYA 先生

19歳でダンスを始める。ダンス世界大会出場やバップダンサーの経歴を持ち、数々のメディアに出演している。その傍ら、現在は自営のスタジオ「GENIE DANCE STUDIO」のインストラクターを務める。

森 麻季 & 錦織 健

インタビュー

日本を代表するオペラ歌手、森 麻季さん・錦織 健さんのデュオ・リサイタルがついに八王子に!人々を圧倒する天性の歌声をお持ちの二人による、アメイジングなコンサートを皆様にお届けします。今回は、そんなご出演者のお二人からコメントをいただきました!フルバージョンはページ下の財団ホームページよりご覧いただけます♪



森 麻季
©Yuji Hori

●森さんにとって、歌とはどのようなものでしょうか。
声楽はゆっくり、じっくりと時間をかけて、自分の身体や人生の重なりと共に声と音楽を育てていくのが素敵だなと思っています。
歌には歌詞があり、オペラには役柄があります。他の楽器にはない大きな特徴ともいえますが、たくさん歌を学んだ歌詞やオペラの内容など、歌に教えられる。オペラを演じている時は、役柄と共に生きるのも声楽の面白さでもあります。

●錦織さんとは何度か共演されていますが、印象やエピソードなど教えてください。
錦織さんは初めてお会いした頃からいつも変わらず、周りをとても気遣い、お優しく、さらに周りを笑わせるようなユーモアもたっぷりな方です。でも一旦演奏になると真剣勝負で、一緒に一緒にいて庄巻の演奏を間近で聴くたびに、私ももっと勉強して音楽の高みを極めていきたいと思われれます。また、演奏と同じくらい、

●森さんとは何度か共演されていますが、印象やエピソードなど教えてください。
「麻季ちゃん」と呼んで先輩面をしています。沢山のことを学ばせてもらった尊敬する先輩です。演奏技術的なことはもちろんですが、プロとしての強いメンタルと舞台人根性も素晴らしいものがあります。
以前彼女と共演するオペラ・ツアリの最中に酷い風邪をひいて代役交代することになりました。電話で断りをいれたところダメです、歌いなさい」と先輩の私を叱ってくれたこともありました。

●錦織さんにとって、歌とはどのようなものでしょうか。
まず私の肩書きを、日本を代表するバラエティオペラ歌手と訂正させていただきます(笑)。
自分にとって歌は「一生を通じて職業だった」ということです。さすがにもう転職もしいと思うので、この仕事を全うできたことに安堵しております。

●今回の公演プログラムへの思いや聴きどころを教えてください。
メインをオペラのデュエットに設定して、お互いの魅力を発揮できる選曲をしました。二人ともコント・ロールが得意なタイプなので繊細な二重唱になるはず。さらに日本歌曲やトークも加えて聴きどころを増やしました。アンコールまで加えると、かなりバラエティに富んでいると思います。



錦織 健
©大沢文化会館(都立大)

森 麻季 & 錦織 健 デュオ・リサイタル アメイジング・ソングス ～愛と煌めきを歌にのせて～

6/17(土) 14:00開演 いちょうホール 大ホール

全席指定 未就学児入場不可

【料金】友の会¥4,100 一般¥4,500

【出演】森 麻季(ソプラノ)、錦織 健(テノール)、山岸茂人(ピアノ)

【お問合せ】

(公財)八王子市学園都市文化ふれあい財団 TEL:042-621-3005



ホームページ

Program

ヴェルディ:
歌劇「椿姫」より「乾杯の歌」

プッチーニ:
歌劇「蝶々夫人」より「愛の二重唱」
歌劇「ラ・ボエーム」より「冷たき手を」
「私の名はミミ」

モンテヴェルディ:
歌劇「ポッペアの戴冠」より「あなただけを見つめて」ほか

※曲目が変更になる可能性があります。



山岸茂人(ピアノ)
©横井明彦